様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ７ 月　 ７ 日現在

機関番号：８２７２０
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１３１７１

研究課題名（和文）日本近代を中心とする仏像の流通・保管に関する調査研究

研究課題名（英文）A study on distribution and storage of Buddha statues with a focus on modern Japan

研究代表者
瀬谷　貴之（SEYA, TKAYUKI）

神奈川県立金沢文庫・学芸課・主任学芸員

研究者番号：５０４４３４１１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：近代を中心にする仏像の流通・保管の実態を明らかにするため、現在や民間や美術館・博物館で所蔵する作品を中心に調査研究を行った。また流通の実態を明らかにするため、売買の実態を示す、売立目録を中心に、関連資料のデータ収集をした。さらに売買により、日本国外に流出した仏像についても、重要作品について調査を行った。これらの調査研究を通して、日本近代において仏像が、美術作品や文化財として価値づけられ、主に売買を通して流通・保管された実態を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
一般に仏像は寺院に伝来し、長期間伝来したものとみられることが多い。しかし、寺院がその長い歴史で、実は移転を繰り返したりするのと同様、一部の仏像も移動を繰り返したことを近代を中心に明らかにした。また近代以降の仏像の移動については、明治初年の廃仏毀釈が契機となったことが指摘されてきた。これに対して本研究では、廃仏毀釈は原因・遠因ではあるもの、実際には仏像が「美術作品」「文化財」として評価された、明治時代後半以降に、仏像が売買を通して流通・保管された実態を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify the current state of distribution and storage of Buddha statues focusing on the present, research has been conducted mainly on private works, art museums and art galleries. In addition, in order to clarify the actual distribution situation, we collect data of related materials mainly on sales catalogs and grasp the actual state of transactions. We also surveyed important works of Buddha statues that flowed out of Japan as a result of trade. Through these studies, Buddha statues in modern Japan were created as works of art and cultural properties, and were revealed mainly through distribution and storage through sales.

研究分野：美術史

キーワード：仏像　仏画　本地仏　売立目録　近代数寄者　メトロポリタン美術館　ハーバード大学美術館　廃仏毀釈

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）仏像の移動や流通について古代においては、寺院の移設や統合などに伴うものが知られる。例えば、藤原京（694～710）に所在した大安寺や薬師寺など各寺院の平城京（710～784）への移建に伴う仏像の移動、平安時代初期の神護寺と高雄山寺の合併による現・神護寺（京都）の創建による安置仏の統合などが良く知られている。また中世以降には、仏像が寺院間で買得されたり、盗難等にあったりして移動した事例が、間々見受けられるようになる。そして、仏像の流通の契機として、最も良く指摘されるのが、幕末から明治時代初頭に行なわれた廃仏毀釈によるものである。現在、国宝や重要文化財に指定され、博物館や美術館、個人が所蔵する仏像や仏画の多くが、廃仏毀釈により奈良や京都の古寺・名刹から流出したとされることが多い。その代表的なものが現在、東京国立博物館に所蔵される、法隆寺の経済的困難解消のために行なわれたとされる「法隆寺献納宝物」（明治 11 年）だろう。

（２）日本彫刻史の研究者は、基本的に寺院に安置される仏像を研究対象とするが、前述のような博物館や美術館、個人が所蔵する仏像を扱う場合も多い。そしてこれら原籍を離れた仏像の研究は、伝来が不明である場合、根本的な情報を欠き不十分なものとなってしまう一面がある。その中で本研究申請者は、これら原籍から離れた仏像の伝来に関する情報を、戦前に多数行なわれた美術品売立の目録から得たことがあった（例：維摩居士坐像〔興福寺旧蔵〕・フランス個人蔵、四天王立蔵・岡田美術館所蔵など、いずれも鎌倉時代）。絵画作品研究では売立目録は良く活用されるが（『古画総覧』国書刊行会参照）、実は仏像研究ではほとんど注目さてれてこなかった。これら売立目録の情報を中心に、近代以降の仏像の流通情報は仏像史研究にとって有益と思われる。また、前述のように廃仏毀釈で仏像が寺院から多数流出したとされるが、実は法隆寺献納宝物（明治 11 年）や興福寺の仏像売却（明治 39 年）など、実際の仏像流出には、明治維新からはタイムラグがある場合が多い。そこには仏像の美術作品としての価値付けと、評価が上がったという前提がある。

２．研究の目的

（１）今日、日本美術史の重要な研究分野の一つである仏像については、由緒ある寺院に伝来し、その歴史を前提に研究されることが多い。しかし、本研究では、仏像が財物としての価値がある故に、実は売買・譲渡などによって移動・保管されることが行なわれたことを明らかにしたい。この仏像の移動は古代から近世以前にも行なわれていたが、ここでは特に近代以降に注目する。なぜなら仏像は近代以降、宝物的価値に加えて、美術作品としても価値付けられ、より盛んに流通し各所に保管されることになったからである。

（２）本研究は「仏像は寺と共に不動なもの」「廃仏毀釈で仏像は寺院から流出した」という既成概念に問題を提起し、その研究成果は近代仏教史や博物館学、経済史、文化史にも隣接しながら、新たな答や課題を提示したい。

３．研究の方法

（１）本研究では、仏像の近代を中心とする流通・保管の実態を明らかにするため、関連作品（仏像を中心とする仏教美術作品）の調査はもとより、関連資料（記録、古写真など）の調査にも重点を置く。関連資料については、特に近代以降の売立目録のうち、仏像に関する情報を集積しデータベース化を試みたい。

（２）近代以降に流通・保管された仏像は、寺院以外の日本国内の博物館・美術館・個人の所蔵品だけではなく、海外の同施設や個人コレクションにも含まれるため、重要作品については海外調査も行いたい。そして、これら関連作品と資料の調査データの整理及び研究を順次行い、研究論文の作成・発表や、学会等での口頭発表も随時行いたい。

４．研究成果

研究課題について広範に調査研究と研究発表などを行った。その内容は以下の通りである。

（１）【近代における仏教美術収集関係資料の調査】その１

近代を中心とする仏像の流通を把握するために、武藤山治、小泉三申、伊藤庄兵衛など明治・大正・戦前期における著名な古美 術収集家、特に仏教美術を収集した人物などについて、基礎的な資料収集を行った。またその収集内容を伺い知ることが出来る、売立 目録について集中的に調査をして、その概要を把握した。今後収集した情報について、分野別等データベース化を試みたいと思う 。 なお主に仏教美術のうち、彫刻（仏像）と絵画（仏画、垂迹画）の分野別に分類整理を行っている（一部は実施し、研究終了後も引き続き行う予定である）。その内容については今後、論文または資料紹介などを通じて報告を行いたい。

（２）【近代における仏教美術収集関係資料の調査】その２
　近代を中心とする仏像の流通を把握するために、益田孝（鈍翁）、武藤山治、小泉三申、野田吉兵衛、松田福一 郎など明治・大正・戦前期における著名な古美術収集家、仏教美術を収集した人物などについて、関連資料収集を行った。売立目録以外にも伝記類や関連記録について調査をした。

（３）【流通した仏像を中心とする仏教美術作品に関する調査】その１
　戦前期に流通し、現在も収集家や古美術商が所蔵する仏像を中心とする仏教美術作品について、調査や写真撮影を行った。特に井上馨旧蔵で興福寺に伝来した弥勒菩薩立像、松田福一郎旧蔵の金銅製聖観音立像などの名品について、詳細に調査を行うことが出来た。また熊本願成寺旧蔵で平安仏画の名品として知られる金胎仏画帖について、新出の二葉を含めて四葉の調査を行った。この他仏像を中 心に多数の関連作品の調査を行ったが、その調査成果の一端を、神奈川県立金沢文庫における企画展「国宝でよみとく神仏のすがた」（平成 28 年 8 月 5 日～10 月 2 日）で発表することも出来た。
　またセジウィック家所蔵の聖徳太子二歳像（ハーバード大学美術館保管 ）の調査を通して、聖徳太子二歳像全般が中世から近代までの仏像の流通・保管を考えるうえで、重要な研究対象であることが明らか になり、その成果の一端をハーバード大学におけるワークショップにおいて発表した

（４）【流通する仏像を中心とする仏教美術作品に関する調査】その２
　戦前期に流通し、現在も収集家や古美術商が所蔵する仏像を中心とする仏教美術作品について、調査 や写真撮影を行った。特に南都（奈良）に伝来した可能性が高い、現在メトロポリタン美術館に寄託される地蔵菩薩立像（院湛作）、仏師運慶の兄弟弟子または 弟子の宗慶が製作した可能性の高く、戦前までは埼玉県加須市の保寧寺が所蔵した不動明王坐像及び両脇侍立像、戦前期に活躍した日本画家で仏教美術収集家としても知られた橋本関雪旧蔵の四天王立像（大仏殿様）などについて、詳細に調査を行うことが出来た。その調査成果の一端を、神奈川県立金沢文庫における特 別展「運慶―鎌倉幕府と霊験伝説―」（平成 30 年 1 月 13 日～3 月 11 日）や、『日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代　造像銘記編 14』（平成 30 年）で院湛作地蔵菩薩立像について発表することも出来た。

（５）【流通する仏像を中心とする仏教美術作品に関する調査】その３
　戦前期に流通し、現在も収集家や古美術商が所蔵する仏教美術作品について、調査や写真撮影を行った。特に明治維新前後の「廃仏毀釈」の影響を多く受けたとされる、神道美術を中心に調査研究を行った。神道美術に関しては、神像や本地仏で ある仏像とともに、数多くの垂迹画、関連する仏画の調査を行うことが出来た。そして國學院大學博物館、国文学研究資料館、国立歴史民俗博物館、名古屋大学 大学院文学研究科附属人類文化遺産テクスト学研究センターなどと共催で行った、金沢文庫特別展「顕われた神々―中世の霊場と唱導―」（平成 30 年 11 月 16 日～平成 31 年 1 月 14 日）で、その成果の一端を早速発表することが出来た。特に伊勢信仰、春日信仰、八幡信仰、富士山信仰、日光山信仰、走湯山信仰などについ て、新出作品を調査して、その成果も発表することが出来た。展覧会は研究者のみならず、一般の人たちにも好評を得ることができ、科学研究費による成果発表 と社会への還元に良いモデルケースとなったと思う。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）
①瀬谷貴之、「霊験仏師」運慶の誕生―称名寺聖教をてがかりにして―（シンポジウム「神仏の儀礼と宗教空間を担うものたち―唱導・仏像・仮面」、説話文学研究、査読無、５３号、2018 年、20―28
②瀬谷貴之、天皇たちの寺と仏、芸術新潮 69-7、査読無、2018 年、32―37、40―65、67-72
〔学会発表〕（計３件）
①瀬谷貴之、聖徳太子二歳像と舎利講をめぐる考察―中世律宗系造像の再検討―、ハーバード大学美術館蔵聖徳太子二歳像共同研究ワーク ショップ（招待講演）、平成 29 年、ハーバード大学ライシャワーセンター
②瀬谷貴之、「霊験仏師」運慶の誕生―称名寺聖教をてがかりにして―」、平成 29 年度説話文学会大会シンポジウム「神仏の儀礼と宗教空間を担うものたち―唱導・仏像・仮面（招待講演）、平成 29 年、名古屋大学
③瀬谷貴之、運慶研究の最前線」、三浦一族研究会大会（招待講演）、平成 30 年、横須賀市
〔図書〕（計７件）
①神奈川県立金沢文庫編、神奈川県立金沢文庫発行、忍性菩薩、2016 年、96
②水野敬三郎編、中央公論美術出版、日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代　造像銘記篇　第 13 巻所収「弥勒菩薩立像　称名寺」作品解説、瀬谷貴之、2017 年、98―119
③瀬谷貴之編集・執筆、神奈川県立金沢文庫、国宝でよみとく神仏のすがた、2017 年、48
④瀬谷貴之解説、新潮社、オールアバウト運慶、2017 年、176

⑤瀬谷貴之編集・執筆、神奈川県立金沢文庫、慶―鎌倉幕府と霊験伝説―、2018 年、96、
⑥瀬谷貴之ほか編集・執筆、神奈川県立金沢文庫、顕われた神々―中世の霊場と唱導―、2019 年、112
⑦水野敬三郎編、中央公論美術出版、日本彫刻史基礎資料集成　鎌倉時代　造像銘記篇　第 15 巻所収「聖徳太子立像　ハーバード大学美術館」作品解説、瀬谷貴之、2019 年、

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。